

吉備国際大学農学部新入生の入学

入学宣誓式は新型コロナウイルスの感染防止対策として、残念ながら中止となりましたが、令和2年度の新入生として、南あわじ志知キャンパスでは、学部生68名、大学院（修士課程）生3名が入学しました。多くの市外出身者の学生が南あわじ市での新生活を送っています。地域の皆さまにおかれましても新入生がアルバイトなど生活面でお世話になることもあるかと思いますが、ご指導のほどよろしくお願いします。

南あわじ志知キャンパスで授業再開



新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令に伴い、南あわじ志知キャンパスでのすべての講義を休講していましたが、5月7日よりオンライン授業を実施し、感染防止対策を実施しながら10月2日より対面での通常授業を再開しました。

キャンパスには学生の声に戻り、新入生にとっては待ちに待ったキャンパスライフが始まりました。一部の授業は対面授業とオンライン授業の併用型（ハイブリット型授業）で実施していますが、課外のサークル活動を含め、全面的に教育研究活動を再開しています。

キャンパス内では感染予防対策として、飛沫拡散防止対策のためのアクリルパーテーション、講義室座席の仕切り板や消毒液の設置など、万全を期するための取組みを行っています。

オープンキャンパスの開催

「1日吉備大生」を体験する機会づくりとして、オープンキャンパスを開催しました。本年は、新型コロナウイルス感染防止対策として、規模を縮小して行いました。

- 内容：学科説明、施設見学、個別相談ほか
- 日時：①7月12日（日）
②8月22日（土）
③9月20日（日）



「第5回くとうみ祭」及び「地域創成生涯学習講座」の中止

毎年11月、南あわじ志知キャンパスにおいて、学園祭「くとうみ祭」を開催し、学生や一般の模擬店、チャリティーバザーやステージ披露などの催しを実施。例年、約600人の方々に来場をいただいていた。また、吉備国際大学農学部では、大学と地域の連携推進を図るため、「地域創成生涯学習講座」を開講していた。

しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、「第5回くとうみ祭」及び「地域創成生涯学習講座」をやむなく中止することになりました。

来年度、新型コロナウイルス感染症が収束すれば開催する予定ですので、皆様のご参加をお待ちしています。

大学連携推進協議会とは？

本協議会は、市内に存する大学等高等教育機関と総合的かつ包括的に連携を図り、6次産業化の推進や地域連携を促進するために設置されております。取り組みの一環として、大学への研究委託（8つの研究会）や、地域との情報共有のための本ニュースの発行等を実施しています。

《 8つの研究会 》

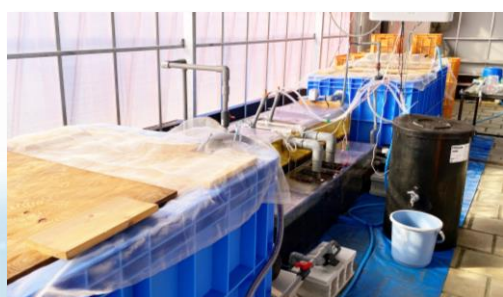
1. 地域特産農作物栽培・育種研究会

農地における長年の肥料や農薬の連用は、農地を疲弊させ農業そのものが実施できなくなると指摘されています。この問題を受け、研究開発した「ルオール（アミノ酸、ビタミン類、有機酸、糖の混合液であるバイオスティミュラントの一種）」を利用することで、農地や生育に対する効果を検証し、化学肥料や農薬の低減可能性を研究しています。



2. クルマエビ養殖研究会

南あわじ市においては、かつてはクルマエビ漁が盛んでしたが、現在では収穫量はほとんどなく、養殖による再生が期待されています。従来の養殖法では、養殖池の汚染・汚濁が避けられず、これに代わる養殖技術の開発が求められています。研究開発した「ルオール」が水質改善にも効果があることに着目し、養殖池を汚さず、持続的にクルマエビを生産できる養殖技術を開発し、普及させるための研究をしています。



3. 植物クリニック研究会

南あわじ市の特産であるタマネギ・レタスなどの病害調査を行い、その原因となる病原菌を研究しています。得られたデータをもとに、特産物の病害に特化した迅速かつ正確な病害診断法の開発を目指しています。また、農学部の植物クリニックセンターを中心に病害診断を行い、生産者からの診断依頼にお答えしたり、診断解析や防除法などの情報を発信しています。



4. 機能性食品開発研究会

機能性成分分析技術を活用し、機能性の価値を高めた食品を開発することで淡路島でしか手に入らない独創的な加工品の研究を行っています。これまでの研究では、淡路島固有の柑橘「淡路島なるとオレンジ」を使ったアイスを開発しました。淡路島なるとオレンジの次の新規材料を模索するとともに、科学的根拠を明確にし、新たな加工品の創造を目指しています。



5. 農作物・食品輸出拡大研究会

近年、海外市場において日本の「農」と「食」への関心が急速に高まっており、南あわじ地域においても各種事業者が海外市場を販路の一つとして検討する動きが見られます。今後、さらなる海外市場の開拓が進むと考えられており、それによって産地や個人生産者がどのような影響を受けるのか、また地域農業や地域経済の発展を促進させる海外種出のあり方や方策についても研究しています。



6. 森林資源保全研究会

里山の新たな価値として、観光、レクリエーション、環境教育といった文化サービスが注目されています。里山の文化的サービスを評価し、それらの利用に伴う管理が生物多様性の保全に寄与しているかどうかを研究しています。

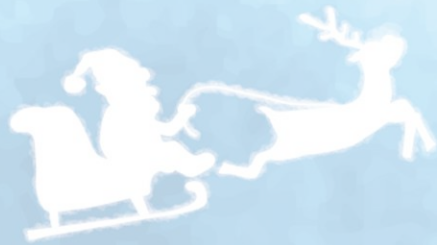
7. 人口減少問題研究会

南あわじ市においても、高齢化、後継者不足などは深刻な問題であり、生活環境の変化や健康への負担が、農業・漁業の活力低下につながることが懸念されます。これらの問題を受け、一次産業従事者の生業戦略、地域の住民組織でつくる「互助」機能の可能性を研究しています。

8. 地域ブランド食品加工創作研究会

淡路島の食材を使用したレシピの開発や商品開発を研究しており、すでに商品化した淡路島なるとオレンジアイスの増産や販路開拓をおこなっています。また、農作物被害をもたらす害獣のイノシシやシカをジビエとして利活用を推進するため、ジビエの魅力を最大限引き出したレシピを考案して、ジビエを新しい南あわじ市の観光資源にするとともに、農作物被害の削減等を目指します。





市長及び市役所職員による講義

今年度の新入生を対象に、守本市長及び市役所職員による講義が行われました。

守本市長は、これまでの自身の実体験を交えながら、学生たちに対して、自ら課題を見つけ、解決する方法を考える力を養って欲しいと、メッセージを伝えていました。

また、市役所職員の方々からは、日本の農林水産業の状況についての話があったほか、南あわじ市の農業、畜産業、水産業等の状況、人材育成に関する取組などについて講義いただきました。

今後、南あわじ市をフィールドとして学び・実習を行う学生たちにとって、役立つ講義となりました。



■ 10月21日（水）

守本市長が「若者をひきつけるまちをめざして」と題して講義



■ 11月11日（水）

産業建設部長が国全体の農業の現状について講義



■ 11月11日（水）

農林振興課長が南あわじ市の農業の現状について講義



■ 11月18日（水）

水産振興課が南あわじ市の水産業の現状について講義